

黒川能の里王祇会館 - 紹介動画(3.水焰の能と蠟燭能)

毎年8月の第1土曜日に行われる、櫛引独特の能の祭典「水焰の能」。この公演は地元の夏の定番であり、総合運動公園の池の上に建てられた野外ステージで行われます。

このお祭りは、くしびき地区設立30周年を記念して1984年に始まりました。今日、水と炎が生み出す不思議な世界・水焰の能を目撃するために、全国から訪問者が集まります。

黒川能は、この地域ならではの能です。それは地元で行われ、神事の本質的な部分と考えられています。神事は公演の前に行われます。式典は、舞台を清め、能の始まりを許すと信じられている春日神社の神々を迎えるために行われます。

春日神社では神聖な炎が灯され、会場に運ばれます。儀式が完了すると、炎がステージの前に置かれ、祭りの始まりを知らせます。公演は狂言風のショートダンスから始まります。

【パフォーマンス】

地元の小学校の子供たちが能の仮面や衣装を使わずに能を簡略化した形である能の演舞(まいばやし)を行います。この学校の生徒は全員、黒川能の演奏方法を教えられています。また子供たちは次に、古典的な能楽「高砂」の踊りを上手に演じます。

大人の能と狂言（漫画の幕間）の公演は、日が沈むと始まります。

黒川能の下座が土蜘蛛を演じます。その中で、歌は古代日本の人々である土蜘蛛を絶滅させた源氏の戦士の物語を表現しています。パフォーマンスは視覚的に魅力的で、独特の雰囲気を作り出しています。伝統的な踊りは、暗い夜にちらつく炎だけで照らされ、それは水面にも反映されます。

水と火は、生命と文明に欠かせない資源であり、水焰の能は真夏の夜に作られた不思議な世界に観客を誘います。

【パフォーマンス】

10月中旬に「蠟燭能」が上演されます。この能は、古くからろうそくの明かりがちらつく雰囲気の中で行われてきました。現在の形式は1994年に最初に実行されました。この芸術形式を復活させる背後にあった希望は、できるだけ多くの人々が黒川独特のパフォーマンスを見て鑑賞できるようにすることでした。

全国から能愛好家を惹きつけるため、地元の若者による実行委員会が設立されました。

【パフォーマンス】

春日神社に建てられた能楽堂を大きなろうそくが困んでいます。

提供されるパフォーマンスは、元の形式と可能な限り類似しています。ろうそくの明かりの下での伝統舞踊は、500年以上にわたって世代から世代へと受け継がれてきました。

上座は“くろづか”と呼ばれる劇を演じます。その中で、平安時代(794年～1185年)にさかのぼる修験道の修験者たちは、畑の真ん中にある旅館に部屋を借りています。夜が寒くなると、旅館のおかみは薪を集めるために山に入るが、彼女が去っている間は寝室を見ないようにゲストに頼む。しかし、好奇心は修験者を支配し、寝室に入り多数の死体を見てしまいます。戻ったとき、女将は彼女の秘密が明らかにされたことを発見し、彼女の本当の姿を明らかにし、悪魔へと変身します。彼女はグループを攻撃しますが、修験道の修験者によって行われた強力な仏教の祈りによって彼らは逃げることを可能にします。

[背景会話]

公演の最後には、参加したい人のために宴会が開かれます。豊作を祈願する2月に行われる王祇祭の名物料理を用意しております。たんぱく質の貴重な源である伝統的な料理である「しみ豆腐」などの郷土料理が含まれています。これらの料理は何世紀にもわたって調理され、祭りに専念する黒川の住民によって提供されてきました。料理の材料は鶴岡の山々から調達しています。懇親会は、能楽師や祭りの実行委員会のメンバーが地元の日本酒を飲み、活発な会話をする機会を提供します。

抽選会では、その日能楽に使われた大きなろうそくや小道具を当選するチャンスが与えられ、大声で歓声が上がります。

黒川能の芸術を次世代に引き継ぐため、地域住民の方々も深く関わっています。

毎年上座と下座を組んで公演を行っています。

あなたも体験してみませんか？